

が予測されることを警告していたため、早い時点での『避難勧告』や『避難指示（緊急）』などの避難に関する情報を発令した自治体が多くあったものの、豪雨災害としては平成になってから最大の被害をもたらしました。

河川の氾濫や浸水、土砂災害、また、これらを引き起こす原因となる大雨については、正確な情報をいち早く得ることが、自らの身と家族を守ることに繋がります。

市は、危険性が高まっている場合には、防災メールや防災行政無線、広報車など、さまざまな方法で情報を発信します。中でも、緊急時の重要な情報伝達手段の一つである防災行政無線を有効に活用できるよう、家中にいたりとき、雨が降っている



川の防災情報

(<https://www.river.go.jp/kawabou/ipTopGaikyo.do>)



気象庁

(<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>)



とき、風が強いときなど、普段の生活の中でどのように聞こえるかを認識していただくため、平成30年4月9日(月)から13日(金)までの5日間、さらに6月11日(月)から8月10日(金)までの2カ月間にわたり、試験的に音楽放送を実施しました。猛烈な雨が降り、スピーカーからの音声が聞きとりにくい場合などは、必要に応じて屋外スピーカーから流れる放送を確認することができ『確認用ダイヤル』（☎850193）や登録した携帯電話などに避難情報などが自動的に配信される『防災メール』などを活用し、自主的な情報収集が必要です。

また、テレビやラジオなどはもちろん、発表されている各種警報、これからの雨雲の動き、雨量、土砂災害や浸水害などの危険度を確認することができます。

気象庁のウェブサイト、胆振幌別川や来馬川、鶯別川、富岸川、登別川、岡志別川の水位などが確認することのできる国土交通省が管理するウェブサイト『川の防災情報』などを活用することで、いち早く危険性を把握することができま。

※市が発令する避難勧告などについては、10ページ『知って備える防災メモ』をご覧ください。

早め早めの行動を

浸水時には、水深50センチ以上でドアを開けることが困難になるほか、水路や側溝などの深みを確認することが難しくなるなど、浸水後の避難は多くの危険を伴います。

また、土砂災害については、発生前に前兆現象が見られる場合もありますが、前兆なく発生する場合や前兆現象を確認したときには既に避難することができない状況もあります。

登別温泉方面では1時間に約20ミリの雨または24時間で約200ミリの雨、鶯別地区では1時間に約10ミリの雨、または24時間で約100ミリの雨

防災カードゲーム

『このつぎなにがおきるかな?』をご存じですか

災害が発生したときに、家族全員が一緒にいるとは限りません。

災害時は、高齢の方をはじめ、子どもたちも年齢を問わず自分自身で避難方法などの判断を迫られる可能性があります。

国土交通省は、平成30年2月、子どもたちへの防災教育の一環として、防災カードゲーム『このつぎなにがおきるかな?』を作成しました。

子どもたちが親しみやすいようカードゲーム形式となっており、さまざまな災害が発生したときに起きる危険な状況と次にとるべき行動を学ぶものです。

災害が発生したときは、自分の身は自分で守ることが基本です。

家族間での避難場所の確認や地域の避難訓練への参加、学校で行った避難訓練を家庭で振り返ること、そして防災カードゲームで災害について学ぶなど、子ども自身が災害について考える時間の積み重ねが、家族の身を守ることに繋がります。

※防災カードゲーム『このつぎなにがおきるかな?』は、国土交通省ウェブサイト (http://www.mlit.go.jp/saigai/saigai01_tk_000005.html) に掲載されています。



が記録されたときには土砂災害の危険性が高まるなど、地域によって数値は異なるものの、河川の氾濫や土砂災害などは一気「もう少し様子を見てから」、

「家のことが心配だから避難しない」などと考えず、自分の身に危険を感じたり、避難勧告などが発令された場合には、あわてず速やかに避難を開始してください。